

ふりがな

こう いくじょ

氏名

洪 郁如

## 1. 学歴

- 1991年8月 台湾大学法学院政治学系 卒業（法学学士）  
1993年4月 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程 入学  
1995年3月 同課程修了（学術修士）  
1995年4月 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程 進学  
1998年9月 同課程単位取得満期退学  
2001年1月 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻 博士(学術)

## 2. 職歴・研究歴

- 2002年4月 明星大学人文学部 専任講師  
2005年4月 明星大学人文学部 助教授  
2007年4月 明星大学人文学部 准教授  
2008年4月 一橋大学大学院社会学研究科 准教授  
2011年4月～ 一橋大学大学院社会学研究科 教授

## 3. 学内教育活動

### (A) 主な担当講義名

#### (a) 学部学生向け

台湾の歴史と社会、社会と文化、社会文化論原典講読、中国語初級、中国語中級(作文)、中国語上級(作文)

#### (b) 大学院

文化生成研究、社会文化論原典講読

### (B) ゼミナール

学部後期、大学院

## 4. 主な研究テーマ

近現代台湾社会史、地域研究(台湾)、ジェンダー研究

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

- 「学歴・女性・殖民地：從台北女子高等學院論日治時期女子高等教育問題」許佩賢編『帝國的學校・地域の學校』國立台灣大學出版中心、2020年(分担部分：231-271頁)
- 『性別與權力』（編著）國立臺灣大學出版中心、2020年
- 「ジェンター・階層・家族」若林正文、家永真幸編『台湾研究入門』（共著）東京大学出版会、2020年、(分

担部分：75-84頁)

4. 『近代台湾女性史：日治時期新女性的誕生』国立台湾大学出版中心、2017年
5. 『台湾映画表象の現在：可視と不可視のあいだ』（共編著）あるむ、2011年
6. 「〈植民地/女性〉を語ること—謝雪紅の評伝・小説・自伝をめぐって」中井垂佐子・吉野由利編著『ジェンダー表象の政治学：ネーション、階級、植民地』彩流社、2011年(分担部分：250-271頁)
7. 「台湾のフェモクラットとジェンダー主流化」野村鮎子、成田静香編『台湾女性研究の挑戦』人文書院、2010年(分担部分：109-126頁)
8. 「植民地台湾の〈モダンガール〉現象とファッションの政治化」タニ・バーロウ、伊藤るり、坂元ひろ子編『モダンガールと植民地的近代—東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー』岩波書店、2010年(分担部分：261-284頁)
9. 「学歴・女性・殖民地：従台北女子高等学院論日治時期女子高等教育問題」『殖民・近代化国際学術研究会台湾学研究論文集』国立台湾中央図書館台湾分館、2009年、(分担部分：157-183頁)
10. 「女子高等教育の植民地的展開—私立台北女子高等学院を中心に」香川せつ子・河村貞枝編『女性と高等教育—機会拡張と社会的相克』昭和堂、2008年、(分担部分：84-113頁)
11. 「植民地の法と慣習—台湾社会の女兒取引をめぐる諸問題」浅野豊美・松田利彦編『植民地帝国日本の法的構造』（共著）信山社、2004年、(分担部分：243-271頁)
12. 「総督府の皇民化政策—女子教育をとおして」、「女性組織の誕生—抗日と女性解放と」、「コラム：謝雪紅」中国女性史研究会編『中国女性の一〇〇年』（共著）青木書店 2004年、(分担部分：225-228,232-236頁)
13. 「近代家族2（中国）」尾形勇編『歴史学辞典 第10巻 身分と共同体』（共著）弘文堂 2003年
14. 『近代台湾女性史—日本の植民統治と「新女性」の誕生』勁草書房、2001年
15. 「日本統治初期士紳階層女性観之轉變」若林正文・呉密察編『台湾重層近代化論文集』（共著）台北、播種者文化出版、2000年、(分担部分：155-281頁)
16. 「明治・大正期植民地台湾における女子教育観の展開」中国女性史研究会編『論集 中国女性史』（共著）吉川弘文館、1999年、(分担部分：244-261頁)
17. 「女性たち」若林正文編『もっと知りたい台湾第二版』（共著）弘文堂、1998年、(分担部分：86-100頁)

## (b) 論文

1. 「ある台湾人少女の帝国後：嶺月の文学活動と脱植民地化」『言語文化』56号、79-97頁、2019年
2. 「もう一つの「日本時代」：近現代台湾女性の識字とエンパワーメント」『中国語中国文化』16号、31-46頁、2019年
3. 「彼女たちの「日本時代」：植民地台湾の製帽業にみられるジェンダー・階層・帝国」『言語文化』55号、35-53頁、2019年
4. 「戦後台湾農村における学歴と教職」『言語文化』54号、91-107頁、2018年
- 5.\* 「臺灣空襲記憶在歴史傳承上的危機 與契機：以戰爭兒童文學為中心」『歴史臺灣』11号、35-74頁、2016年
6. 「朝鮮引揚者のライフ・ヒストリー：成原明の植民地・引揚げ・戦後」（共著）『人文・自然研究』10号、147-180頁、2016年
7. 「フェミニズム運動,政党,キャンパス：近現代台湾政治と女性」『言語文化』52号、69-78頁、2015年
- 8.\* 「戦争記憶與殖民地記憶：開原緑的台湾日記」『近代中国婦女史研究』24号、47-82頁、2014年
9. "Between Understanding and Reconciliation: From the Perspective of Taiwan Studies" *The Gakushuin Journal of International Studies*, 1号、13-24頁、2014年
10. 「理解と和解の間 - 「親日台湾」と歴史記憶」『言語文化』50号、17-29頁、2013年
11. 「読み書きと植民地：台湾の識字問題」『言語文化』49号、75-93頁、2012年

12. 「コロニアル・フェミニズム」は可能か—台湾におけるジェンダー・家父長制・植民地主義の交錯『植民地文化研究』10号、27-33頁、2011年
13. “Taiwanese Female Students in Japan under Colonial Rule” *Hitotsubashi journal of social studies*, 42巻2号、12-28頁、2010年
- 14.\* 「旗袍・洋装・モンペ(燈籠袴)：戦争時期台湾女性的服装」『近代中国婦女史研究』17号、31-66頁、2009年
15. 「漢族社会における〈関係〉生成の論理—ある台湾家庭の〈礼簿〉の分析」『接続』7、152-172頁、2007年
16. 「帝国日本の〈家政学〉と台湾の植民地的近代」『接続』7、146-151頁、2007年
17. 「台湾人女性の(内地留学)」『接続』5 ひつじ書房 254-276頁 2005年
18. 「植民地台湾におけるファッションと権力」『接続』4、ひつじ書房、2-20頁、2004年
19. 「服飾の政治学に向けて」『接続』4、ひつじ書房、28-31頁、2004年
20. 「本土意識と文学史の構築—王宏志「中国人の書いた香港文学史」を読む」『接続』3、ひつじ書房、118-125頁、2003年
21. 「台湾人家庭のなかの外国人労働者」『接続』3、ひつじ書房、182-214頁、2003年
22. 「近代台湾女性史序説—日本植民統治下における「新女性」の誕生—」東京大学大学院総合文化研究科博士論文 2001年
23. 「日本の台湾統治と婦人団体—1904-1930年の愛国婦人会台湾支部に関する一試論」『立命館言語文化研究』10巻5,6合併号、159-177頁、1999年
24. 「日本植民統治と婦人団体—試論 1904-1930年愛国婦人会台湾支部」『台湾風物』第47巻第2期、53-72頁、1997年
25. 「求められる新女性像—日本統治初期における台湾の社会変容をめぐって」『中国女性史研究』7号、1-21頁、1997年
26. 「日本の台湾支配と婦人団体—愛国婦人会台湾支部を中心に」東京大学大学院総合文化研究科修士論文 1995年
27. 「初探台湾新興社会運動的理論脈絡」『政治学刊』創刊号、111-125頁、1990年
28. 「日据時代台湾婦女活動状況の歴史観察」『新女声』第6期、6-8頁、1990年

### (c) 翻訳

1. 『韓石泉回想録——医師のみた台湾近現代史』(共訳) あるむ、2017年
2. 『族群：現代台湾のエスニック・イマジネーション』(共訳) 東方書店、2014年
3. 『地名の世界地図』(訳書：21世紀研究会編 『地名の世界地図』 文芸春秋 2000年) 台北、時報文化出版企業有限公司、2002年
4. 林玲子、柳田節子監修『アジア女性史』(共訳)「日本植民統治下の台湾における公娼制度と娼妓に関する諸現象」明石書店、414-428頁、1997年
5. 夏栄和等編『台湾・中国・二二八』(共訳)「台湾戦後小秘史」台北、稲郷出版社 227-241頁 1992年
6. 『台湾史論集：曹永和教授古希嵩寿記念』(共訳)「作為日本南進基地的台湾」台北、台湾史專題研究課程同窓会、245-258頁、1991年

### (d) その他

1. 「解説 韓石泉回想録」『韓石泉回想録：医師のみた台湾近現代史』349-366頁、2017年、あるむ
2. 「導読 湾生記憶如何閲読：我們準備好了嗎」『南風如歌：一位日本阿嬤的台湾鄉愁』9-22頁、2014年
3. 書評：「紀旭峰著『大正期台湾人の「日本留学」研究』(龍溪書舎,2012.2)、『史學雜誌』第122巻第10号、2013.10.20

4. 書評：「謝黎著『チャイナドレスの文化史』」（青弓社、2011.9）、『東方』通巻371号、2012.1
5. 「『愛国婦人会台湾本部沿革誌』解説『愛国婦人会台湾本部沿革誌』ゆまに書房、2007年
6. 書評：「従来の〈台湾像〉を検証する 新たな視角を提供〈記憶〉をキーワードに」『記憶する台湾——帝国との相剋』（呉密察・黄英哲・垂水千恵編、東京大学出版会、2005年）、『図書新聞』2735号、2005年
7. 「〈東アジアにおける植民地的近代とモダンガール〉プロジェクト紹介『近きに在りて』第48号、2005年
8. 書評：「何義麟『二・二八事件—「台湾人」形成のエスノポリティックス』（東京大学出版会）『歴史学研究』第787号、53-56頁、2004年
9. 「回顧と展望：台湾」『史学雑誌』第113編、第5号（2003年の歴史学界—回顧と展望—）258-262頁 2004年
10. 「簡淑循さんインタビュー記録～台湾・日本での女子教育の思い出～」（共著）『中国女性史研究』12号、31-38頁、2003年
11. 「台湾の女性運動」天兒慧他編『現代中国事典』岩波書店、1999年
12. 書評：「謝雪紅・野の花は枯れず—ある台湾人女性革命家の生涯」（陳芳明著、森幹夫訳、志賀勝監修／社会評論社出版）『図書新聞』2409号、1998年
13. 書評：「植民地台湾の日本女性生活史 大正編」（竹中信子著、田畑書店出版）『近代中国婦女史研究』第5期、台湾・中央研究院近代史研究所、249-263頁、1997年

## B. 本研究科着任後の研究活動（着任2008年）

### (a) 国内外学会発表

- 1.\* 「脱植民地化と文学活動：「少国民世代」台湾人女性の戦後史」中国女性史研究会、2021年2月27日、オンライン開催
- 2.\* 「如何記憶？従何訴説？日本與台灣的空襲和戦争経験」2020年12月11日、台湾 政治大学、オンライン開催
- 3.\* 「台湾近現代史中的世代意義」近代台湾歴史與文化、2019年12月5日、台湾 政治大学
- 4.\* 「台湾近現代史中的服装政治」近代台湾歴史與文化、2019年12月4日、台湾 政治大学
- 5.\* 「她們的「日本時代」：性別與階層的歷史研究方法論省思」2019年3月22日、台湾 国立政治大学台湾史研究所
- 6.\* 「與作者有約：台湾近代女性史」2019年3月20日、台湾 国立台湾師範大学 台湾史研究所
- 7.\* 「少女たちの帝国後—台湾人女学生の脱植民地化」国際シンポジウム「〈帝国〉日本をめぐる少女文化」2019年3月8日 文科省科学研究費基盤研究(A)「建国初期中国を移動する身体芸術メディア・プロパガンダ—戦時期からの継承と展開」研究グループ（課題番号：18H03568、研究代表者：星野幸代）、名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリー2階レクチャー・ルーム
- 8.\* 「台湾空襲與疏開在歴史傳承上的危機與契機」戦争與記憶：亞洲地區的經驗與論述國際研討會、2015年10月25日、台湾 国立成功大学
- 9.\* 「台湾「日本時代」再考：階層とジェンダーの視点から」日本台湾学会定例研究会（歴史・政治・経済部会）第100回 シリーズ「台湾社会・文化研究の最前線」(4) 2015年6月19日 早稲田大学台湾研究所、早稲田大学東アジアの政治と思想研究部会、早稲田大学3号館3階306号室
- 10.\* 「大和民族的衣裳：近現代東亜場域中和服論述、資本與性別政治」国際シンポジウム「台湾文学研究新視野：全球化與階級重構」2014年10月、台湾 国立清華大学台湾文学研究所
- 11.\* 「性別視角下的日本帝国域内移動與跨境：以台湾為中心」国際シンポジウム「日本帝国與殖民地：人流與跨境國際學術研討會」2014年10月、台湾 中央研究院台湾史研究所

- 12.\* 基調講演「誰的〈日本時代〉—女性口述與自傳文本中的性別、階層與帝國」国際シンポジウム「性別正義：探索家庭、校園與職場的重構機制」2013年10月、台湾、清華大学
- 13.\* 「理解と和解の間—台湾史研究の観点から」国際シンポジウム「戦争, 植民地, 和解—東アジア現代史再考」2013年7月、学習院女子大学
- 14.\* 「日本学界対戦後台湾史研究の状況」学術シンポジウム「台湾史研究的回顧與展望」2012年12月、台湾、政治大学台湾史研究所
- 15.\* 「日記中的戦争記憶與植民地経験：以開原緑的台湾日記為例」国際シンポジウム「戦争・記憶與性別」2012年12月、台湾、中央研究院近代史研究所
- 16.\* 「モンペ着用—植民地台湾の戦争動員」シンポジウム「東アジア近現代の〈衣〉の社会史」2011年7月、文化学園大学
- 17.\* 「旗袍・洋装・燈籠褲(monpe)—戦争時期台湾女性服装之探討」国際学術シンポジウム「従性別看現代戦争」、2008年12月、台湾・中央研究院近代史研究所
- 18.\* 「学歴・女性・植民地—従台北女子高等学院論日治時期女子高等教育問題」台湾学研究国際学術シンポジウム「植民と近代化」、2008年11月、台湾、台北市・中央図書館台湾分館
- 19.\* 「ファッションと植民地的近代—日本統治時代の台湾人女性の服装について」関西中国女性史研究会、2007年1月1日、同志社大学室町キャンパス
20. “Taiwanese Women Students in Japan under Colonial Rule” The 57<sup>th</sup> Annual Meeting of the Association for Asian Studies, 2005年4月1日、Chicago, USA
21. 「植民地台湾におけるファッションと権力」国際シンポジウム「アジアのモダンガールと〈世界〉—グローバル資本・植民地的近代・メディア表象—」2004年9月1日、東京ウィメンズプラザ・ホール
22. 「日本の植民統治と〈新女性〉の誕生」学術フォーラム主催、2002年7月1日、明星大学
23. 「植民地の法と慣習—台湾社会の養女・媳婦仔・查某嫲をめぐる諸問題」『国際日本文化研究センター共同研究会 日本植民地法制度の形成と展開に関する構造的的研究』第4回研究会、2001年11月1日、国際日本文化研究センター
24. 「塑造新女性—探討日本統治初期士紳階層女性観之轉變」『台湾之重疊・圧縮型近代化的社会史研究研討会』第一回日台青年台湾史研究者交流会議、1997年7月1日、台湾大学
25. 「日本の台湾統治と婦人団体」『日本と台湾 その100年を考える—日台関係100年記念留学生交流フォーラム』1995年6月1日、拓殖大学 文教キャンパス

#### (b) 国内研究プロジェクト

1. 「植民地台湾「少国民世代」の戦後史に関する基礎研究」(研究代表者)、科学研究費、基盤研究(C)、2018年度～2022年度
2. 「戦後台湾の農山漁村における家族変動の社会史」(研究代表者)、科学研究費、基盤研究(C)、2014年度～2017年度
3. 「台湾家族における文化資本の継承と変容：戦前・戦後を跨ぐオーラル・ヒストリーの構築」(研究代表者)、科学研究費、基盤研究(C)、2011年度～2013年度
4. 「台湾女性史とジェンダー主流化戦略に関する基礎的研究」(研究分担者)、科学研究費、基盤研究(B)、2007年度～2009年度
5. 「東アジアにおける植民地的近代とモダンガール」(研究分担者)、科学研究費、基盤研究(A)、2003年度～2006年度

#### (d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

1. オーガナイズ：連続公開講座「台湾地域研究と修学旅行」、早稲田大学、2019年10月25日～12月20日
2. オーガナイズ：国際シンポジウム「抵抗する芸術：戦後台湾のモダニティ・身体・ジェンダー」一橋大学、2014年、7月15日
3. オーガナイズ：日本台湾学会第14回学術大会、一橋大学、2012年5月26日
4. オーガナイズ：国際シンポジウム「東アジアの越境・ジェンダー・民衆—ドキュメンタリーと映画から見た日台関係の社会史—」一橋大学、2010年11月3日

## C. 受賞

1. 財団法人林宗毅博士文教基金會文化獎章、財団法人林宗毅博士文教基金會、2010.10
2. 第17回女性史青山なを賞、東京女子大学、2002.11

---

## 6. 学内行政

### (B) 学内委員会

図書委員会  
国際交流委員会  
HGP 科目委員  
一橋ジャーナル編集委員

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学非常勤講師など

2003年4月 - 2005年8月 一橋大学 社会学部 非常勤講師  
2002年4月 - 2005年3月 明星大学 - 講師  
2003年4月 - 2004年8月 東京女子大学 - 非常勤講師  
2002年4月 - 2004年3月 明治大学 - 非常勤講師  
2002年4月 - 2003年3月 共立女子大学 国際文化学部 非常勤講師  
1999年4月 - 2000年7月 新潟経営大学 - 非常勤講師

### (b) 所属学会および学術活動

1. 日本台湾学会、常任理事 (2015年～)
2. 日本台湾修学旅行支援研究者ネットワーク (SNET 台湾)、共同代表 (2018年～)

### (c) 公開講座・市民講座

1. 「国立台湾歴史博物館から台湾修学旅行をデザインする」連続公開講座「台湾地域研究と修学旅行」、早稲田大学、2019年12月20日
- 2.\* 「有讀日本冊！「高女」與台灣新女性的萌發」「大正台灣『新女性』時代」系列講座、2017年7月5日 台湾大学出版中心、誠品書店台大店
3. 「近代台湾の女性と家族」国際交流基金 アジアセンター主催 『アジア理解講座』 1997年12月1日、国際交流基金フォーラム (赤坂)

### (d) 高校生向け出張講義・模擬講義

1. (出張講義)都立八王子東高等学校(オンライン実施)、2021年2月6日
2. (模擬講義)富山県立富山中部高等学校、2019年8月2日
3. (出張講義)神奈川県立金沢総合高校の台湾修学旅行事前学習、2019年5月17日

(e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

1. 「養女慣習からみた近代日本社会」台湾の元「慰安婦」裁判を支援する会主催、2003年7月1日、東京ウイメンズプラザ
2. 「従く夫人外交>看日本的殖民統治」フォルモサ婦女会主催 2003年1月1日、東京・白金台 台北駐日経済文化代表処官邸
3. 「台湾のなかの<日本>—新女性誕生と変換」女性史青山なを賞 受賞記念講演 2002年11月1日、東京女子大学
4. 「日本の植民統治と<新女性>の誕生」『新日台交流の会』第42回日華資料センター主催、2002年9月1日、東京・日華資料センター

---

## 9. 一般的言論活動

1. 「社会学部 地域研究(近現代台湾社会史)／洪郁如ゼミ」『HQ2021』2021年3月
2. 「線上樂遊台湾博物館！ 駐日文化中心製播10支影片」『自由時報』2020年9月25日
3. 「儒教の伝統、男尊女卑の傾向…それでも台湾で女性議員が多いのはなぜ 探ってみた」『毎日新聞』2020年2月26日
4. 「讓日本高校生認識台湾」台湾テレビ番組「民視台湾學堂 台製日常」に出演、2019年11月4日
5. 「日本相撲土俵凸顯性平問題 打破現狀不易」『中央通訊社』2018年4月28日